

○ オウレン(黄連)



photo by Qwert1234 CC-BY-SA, from Wikimedia Commons

語源

オウレン属の *Coptis* は、ギリシャ語でコプトー「切る、切り刻む」から。葉の縁がギザギザであることを表している。種小名 *japonica* はラテン語で「日本の、日本産の」を、同様に、*chinensis* は「中国の、中国産の」を意味する。また、和名のオウレン(黄連)とは、節状にタマが連なったようなひげ根を伸ばし、その断面が鮮やかな黄色であることに由来する。

基原

Coptis japonica オウレン
C. chinensis (中国名：黄連、味連、川連)
C. deltoidea (中国名：三角葉黄連、雅連)
C. teeta (中国名：雲南黄連、雲連)

キンポウゲ科 常緑多年生草本

薬用部分

根をほとんど除いた根茎

産地

日本(兵庫、福井、鳥取など)、中国(四川、雲南など)

主な成分

アルカロイドを主成分とし、ベルベリン含量は4~7% (局方3.5%以上)である。このほか、コプチシン、パルマチン、オウレニンなどを含有する。



主な薬効

鎮静、抗腫瘍、抗炎症、抗菌作用など

代表的処方

止瀉薬および苦味健胃薬として配合剤(胃腸薬)の原料とする。また、漢方処方用薬でもあり、健胃消化薬、止瀉整腸薬、止血薬、精神神経用薬とみなされる処方及びその他の処方に配合されている。

【黄連湯】

オウレントウ

食あたりなどの胃痛、腹痛、吐き気、食欲不振、頭痛、口臭、舌苔、急性胃腸炎、胃酸過多症、口内炎、二日酔、回虫・胆石などによる胃痛(頓服)

(処方内容) 半夏/黄連/甘草/乾姜/桂枝/大棗/人参

【半夏瀉心湯】

ハンゲシャシントウ

胃部がつかえて硬く、吐き気、舌が湿潤で白苔を有し、食欲不振でげっぷが多く、腹鳴があり軟便または下痢の傾向のあるものの次の諸症に用いる：急・慢性胃腸カタル、発酵性下痢、胃酸過多症、胃下垂症、消化不良、神経性胃炎、胃弱、二日酔、胸やけ、口内炎、神経症

(処方内容) 半夏/人参/黄芩/甘草/乾姜/大棗/黄連

文献報告

【抗ピロリ菌】

Anti-Helicobacter pylori activity of herbal medicines

Biol. Pharm. Bull, 1998, 21, 990-2

【抗肥満】

オウレン抽出物とその主成分ベルベリンがヒト皮下由来脂肪細胞に及ぼす分化誘導抑制作用および脂肪分解促進作用

J. Soc. Cosmet. Chem. Jpn, 2009, 43, 274-80

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「和漢薬の事典」「漢方のくすりの事典」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力

福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11

TEL : 06-6364-5861 FAX : 06-6364-6562

URL : www.fukudaryu.co.jp